

令和5年度 第1回 帯広市地域包括支援センター運営協議会議事概要

日 時 令和5年5月29日(月) 19:00~19:51

場 所 帯広市役所 10階第3会議室

出席者 佐藤委員、杉野委員、鈴木委員、鳴海委員、野尻委員、長谷川委員(五十音順)
事務局

(地域福祉課) 永田課長、藤本課長補佐、齋藤課長補佐、西端係長、北野主査、
佐々木主任、山本係員

(介護高齢福祉課) 野原主幹、高橋課長補佐

1. 開 会 (19:00~)

会議の成立について、委員8名中6名の出席があり、「帯広市地域包括支援センター運営協議会設置要綱」第6条第2項により成立していることを事務局より報告。

2. 議 題

(1) 帯広市地域包括支援センター運営協議会所掌分 (19:05~)

報告事項1 指定介護予防支援事業所等の一部を委託する居宅介護支援事業所の選定

資料に基づき、前回報告時からの変更部分について、事務局より説明した。

報告事項2 地域包括支援センター職員体制

資料に基づき、前回報告時からの変更部分について、事務局より説明した。

報告事項3 令和4年度 地域包括支援センター実績報告

資料に基づき、令和4年度の実績報告について、事務局より説明した。

- 総合相談の件数は減少傾向にあるが、令和3年度実績と比較すると、介護予防に関する相談、高齢者福祉サービス、虐待・権利擁護の相談(成年後見制度の相談及び対応困難な課題に関する相談)の件数が増加している
- 個別ケア会議開催件数は令和3年度を上回っているが、ケアマネジメント支援会議開催件数は減少。「地域からの孤立」、「虐待(疑い含む)」、「支援拒否」、「地域トラブル」について、前年度に比べ事例に占める割合が大幅に増加している
- 普及啓発事業、地域包括支援センター(以下、「センター」という)独自企画、企業や地域団体向けの認知症サポーター養成講座については、コロナ禍以前の件数へ復調傾向

報告事項 4 令和 4 年度 地域包括支援センター事業報告及び運営費決算

資料に基づき、事務局より説明した。

- すべてのセンターにおいて、令和 4 年度の事業計画として、地域共生社会実現に向けたダブルケアやヤングケアラーなど分野の枠を越えた関係機関との取り組みについて記載があった
- 複合的な課題を持つ世帯への支援として、多様な関係機関との連携、ネットワーク構築を図ってきたことがうかがえる

(質疑・応答)

委員：報告事項 3、10 ページの認知症サポーター養成講座に係り、養成後のサポーターの活動について、取り組みにつなげる仕組みや見通しなどはあるか。また、地域共生社会とあるが、社会資源が高齢者支援に係る資源に偏っている印象もあるため、多面的な支援ができるようより広い視点でのつながりがあるとよいと感じた

事務局：認知症サポーターの活動としては、帯広市認知症高齢者等 SOS ネットワーク事業において、行方不明者の捜索へ協力する「みまもりサポーター」の登録、チームオレンジの活動へ向けたステップアップ講座の開催を進めてきたところ。また、地域共生社会に係る連携については、複合的な課題を抱える世帯への対応事例を積み上げることにより、様々な視点や広い視野での支援について考えていきたいと、センターとも共有している

委員：みまもりサポーターの年齢層はどうなのか

事務局：若い方から 80 代の方まで幅広い

委員：高齢者は日中、若い世代は夜間動きやすいなどと思うので、幅広い年齢層の方をうまく活かしていけるとよいかと思う

委員：関わる世帯の家族背景や事情が多様化しており、センターへ相談する事例も複数ある。現場レベルとしても、事例を積み上げていくことの重要性は感じているところ。センターだからこそ関わることのできる事例、課題が複雑化した困難事例なども多くあるのではないかと感じる

また、認知症サポーターの行方不明者捜索の件、全国的な傾向として SNS 等を活用した捜索も当たり前になってきている。捜索アプリの活用等の仕組みづくりを、まちづくりとして取り組んでいる自治体もあるので、もう一歩いま風に踏み込んだ活動としてそれらの活用を検討するのも良いのではと感じる

委員：家の近くを心配な様子的高齢者が歩いていたので、自分もウォーキングしながら様子をうかがっていたことがある。辺りを見回していたのでお困りかと声をかけたが断られてしまい、それ以上踏み込んだ対応はできずに姿を見失ってしまった。インターネットで、付近で捜索されている人がいないか検索したが、ヒットしなかった。「行方不明になったので探してほしい」はひとつの状態としてあるが、「こんな人が迷っている、見つけた」という内容を掲載したサイトがあってもよいのではと感じた

委員：行方不明者の捜索に当たっては、多くの人を持っているスマートフォンを活用し捜索できる手段があっても良いかと思う

委員：報告事項 3、8 ページの地域ケア会議実施回数について、ケアマネジメント支援会議の実施回数がセンターによりばらつきがあるのはどのように捉えたらよいか

事務局：各センターにおいて企画・開催方法にバラつきがある。例えば、年度当初に年間のスケジュールを

組み定期的にケアマネジメント支援会議を開催するセンターもあれば、地域のケアマネジャーの状況により会議を企画・開催するセンターもある。また、コロナの影響等で企画はしたが開催に至らなかったセンターもあるなど、状況が様々であった結果、実施回数に差が出たものと考えている

協議事項 1 令和5年度地域包括支援センター事業計画及び運営費予算

資料に基づき、事務局より説明した。

- 地域包括ケアの取り組みの推進・深化、また、社会参加と自立の促進などを運営方針としつつ、地域共生社会の実現をめざし、複合的な課題を抱える世帯への支援・連携の体制づくりを重点業務と位置づけている
- PDCA サイクルを意識して業務を実施し、センターの機能強化を進めたいと考えている

(2) 地域密着型サービス運営委員会所掌分 (19 : 40～) ※別途議事録作成

(3) その他 (19 : 50)

事務局より、次回の開催日程は8月下旬を予定していることを連絡。

3. 閉会 (19 : 51)